

難聴児対策の現状と課題について

全国難聴児を持つ親の会

会長 鎌田 浩二

1. 親の会から見た難聴児対策の現状
 - ・新スク→聴スクによる早期発見
 - ・選択肢の増加（手話・口話・補聴器・人工内耳・骨導式 等）
 - ・早期補装からの療育が可能
 - ・補聴器や人工内耳等の進化
 - ・補聴を支援する機器の増加や普及
 - ・IT、ICTなどの活用

2. 親の会から見た難聴児対策の課題
 - ・選択肢増加による情報不足
 - ・聴スク公費負担（地方格差）
 - ・手帳を持ってない難聴児への対策
 - ・療育施設（地方格差）
 - ・補聴器・人工内耳への誤認識
 - ・難聴児に対するセンター的機能不足
 - ・国の療育に対する指針等が無いため、学校現場でも地方自治体任せ（地方格差）
 - ・保護者の公私及び金銭的負担

3. 親の会から見た難聴児対策の要望（案）
 - ・国会、国を挙げて難聴児対策を行ってほしい
 - ・小学校に入るまでの療育機関の設立と、難聴児対策の指針なり療育方法等の指針
 - ・手帳を持ってない難聴児対策
 - ・補装具や補聴支援機器または情報通信機器等の公的負担